

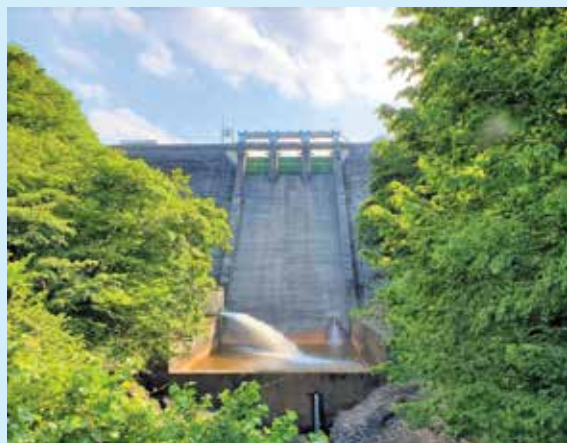


## 安中市の水道事業

市の水道事業は、計画給水区域面積126.13平方キロメートル、計画給水人口59,500人、計画一日最大給水量44,500立方メートルとし、現在の普及率は99.8%に達しています。

浄水場は、河川の表流水を水源とする坂本と入牧、中木ダム(妙義湖)の水を利用する久保井戸浄水場、そして湧き水を水源とする一ノ瀬と滝ノ入、西野牧浄水場の6つを有し、それぞれ24時間365日休まず水をつくっています。

また、本市の起伏のある地形に対応するため多くの配水池やポンプ場を設け、各家庭に適切な圧力で水を届けています。導水・送水・配水管の総延長は約590キロメートルにもおよび、これは東京から神戸までの距離よりも長くなります。なお、大谷地区は高崎市から給水されています。



中木ダム（松井田町五料）

全国でも数少ない、上水道の水源確保を目的として市町村が管理運営するダム。台風などの大雨で洪水が起きた際は水をため、下流への放流を調節して流域の被害を軽減します。



### いざという時は 助けに行く

#### 能登半島地震の被災地で給水活動

日常生活に欠かせないライフラインである、安全安心で良質な水を皆さんに安定してお届けするのが水道事業の基本であることは、どの自治体も同じです。

市は、日本水道協会からの要請を受け、1月から3月にかけて計3回、延べ20人が能登半島地震の被災地、石川県輪島市で他自治体とともに応急給水活動を行いました。



飲料水用の袋に給水し、配付しました



## あんなか水道 70年のあゆみ

昭和29年12月  
(1954年)

当時の安中町など4町が上水道事業を共同で行うため、碓氷上水道組合(後の碓氷上水道企業団)を発足させる。

昭和33年  
(1958年)

坂本浄水場が完成し、3月に坂本、臼井、松井田地区に通水が始まり、後に安中市まで延長される。

昭和54年4月  
(1979年)

産業基盤や生活様式の変化により、給水量が大幅に増加したため、遊休施設だった中木ダムを県から取得する。

昭和54年5月  
(1979年)

久保井戸浄水場が完成し、計画給水人口と1日最大給水量を大幅に変更するとともに、行田、東横野、野殿、板鼻地区に給水区域を拡張する。



建設中の坂本浄水場